

平成27年5月の思いやり通信

再生エネ、2030年に24% — 環境省が発電量試算

2013年度の2.5倍 昨冬、電力供給に余力 原発なしでも



環境省は、太陽光や風力などの再生可能エネルギーの発電量が現状の普及率のままでも2030年に全体の24%に達するとの試算を発表しました。2013年度の約2.5倍になります。太陽光は、マンションなど集合住宅が大きく伸びて2030年に現状の約5倍になり、風力は洋上風力などが大きく伸びて8.5倍になります。地熱は4倍になると見込んでいます。

経済産業省は、昨冬の全国の電力需給の状況を公表しました。原発が稼働しなくても電力供給の余力の割合を表す予備率を4%以上確保しており、安定供給の目安とされる3%を上回りました。

(2015年4月4日 日本経済新聞記事から抜粋)

再生エネ、原発上回る — 経産省案

電源構成、2030年に23~25%



経済産業省は、2030年時点の望ましい電源構成「ベストミックス」について、原子力発電の比率を21~22%前後とする方向で調整に入りました。

太陽光などの再生可能エネルギーの割合は23~25%と、原発を上回る水準にします。原子力の比率を東日本大震災前の28.6%から大きく減らし、再生エネを最大限に導入する姿勢を打ち出します。

※ベストミックス：将来の最適な電源構成のこと。

(2015年4月6日 日本経済新聞記事から抜粋)



テーマは「思いやり」 エコライフについて考えます。

思いやり通信 NO. 2

エコ住宅について



HEMS：家庭向けエネルギー管理システム。省エネ・蓄エネ・創エネに加えて、エネルギーの使用状況を見ることで無駄をなくせます。

ZEH（ゼッチ）：ネット ゼロ エネルギー ハウスの略。太陽光発電などの「創エネ」により消費量を抑えてエネルギー収支をゼロ以下にし、エネルギーの自給自足が可能になります。国は、2020年までにZEHを標準的な新築住宅に、2030年までにすべての新築住宅の平均でZEHにするという目標を掲げています。

省エネ住宅ポイントについて



☆新築の時に住宅エコポイントをもらっていても、省エネ住宅ポイントのエコリフォームのポイントがもらえます。

☆目的が同じ補助金制度との併用はできませんが、市区町村や都道府県独自の補助金は併用できます。

☆エコ住宅の新築：一律30万ポイント

☆エコリフォーム：最大30万ポイント

☆エコリフォーム+耐震改修：最大45万ポイント

(2015年4月27日 日本経済新聞記事から抜粋)

